

平成29年度 長崎総合科学大学附属高等学校 学校評価自己評価表

評価者氏名 (校長 田原 章吾)

学校教育基本方針	日本国憲法および教育基本法の本質にもとづいて、国家および社会のよりよき形成者として心理と平和を愛し、自主創造の精神にみちた人間性豊かな人物の育成をめざす。 個人の人格・個性を尊重し、文化的・体育的な自発学習と創造活動を促し、調和のとれた心身の発達に心がける。また、労働を尊び責任を重んじ、科学と技術を国民の幸福と人類の平和のために役立てることを願う、誠実にして実践力のある人間を育てる。
学校教育目標	学園を厳正な学問と人間形成の場とするとともに、人間尊重の理念にもとづいて、自主的かつ積極的に相互の信頼と理解を深め、集団生活の規律を確立させる。 解る授業の展開はもちろん、あらゆる場を教育の現場と考え、学力の向上を推進し、併せて、徳性の涵養・自他との融合・礼節を尊ぶ、心身ともに健康な人間の育成に努める。
重点努力目標	便利で豊かな現代社会は、生徒たちの人間形成に微妙な影を落とし、意欲・関心において、多様な生徒が入学してくるようになった。教師自らが新しい時代の教育のあり方を研鑽し、率先垂範を心がけるとともに、生徒に対し、自ら学び、自ら考え、自ら行動する人格を育成する。清潔で非行なき学園をめざし、高大連携・進路指導・体験学習を通し目的意識の確立を図り、生徒・保護者・地域の信頼を得るとともに、「明るく 元気に さわやかに」をモットーに「生徒が輝く学校」創りに邁進する。

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価		総括	成果と課題
				前期	年度末		
1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的成果の評価							
① 学校教育目標	学校教育目標の具現化	学校の実態に即した目標が設定され、教職員間の共通理解のもとに、教育目標の具現化を図る	建学の精神、中長期的なビジョンを踏まえた目標を設定する	4	4	3.9	「明るく 元気に さわやかに」をモットーに「生徒が輝く学校創り」を目指した年間方針達成のため、全教職員それぞれが自覚を持ち、共通理解のもと目標達成のため取り組み、3年生の進路もほぼ希望通りに決定できた。
			前年度の教育課題や生徒の実態を踏まえた適切な重点目標を設定する	4	4		
			校務分掌及び学年の経営方針のもと学校の教育目標を具現化する方策を盛り込んで実践する	4	4		
			目標達成の度合いを年度途中で評価・確認する機会を設け、その後の教育活動に活かす	4	3.8		
② 学校経営方針	経営方針の明確化とその実践	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う	自校の教育課題を明確にし中期的な学校ビジョンを検討する	4	4	3.9	各学年、各コース毎に授業充実、学力向上に努めた。また、サッカー部インターハイ・全国高校選手権出場（ベスト8）、ヨット部九州大会出場など、学業・スポーツ両面で成果を出すことができ
			各教職員が経営方針を意識して教育活動を展開する	4	4		
			教育目標や経営方針等を生徒・保護者・地域等に説明したり、広報したりすることに努める	3.5	3.8		
③ 学年経営	学年目標の具現化	学校目標に沿った学年目標による経営を行う	学年目標の教員・生徒への浸透を図り、その目標達成のための教育活動を展開する	3	3.8	3.4	学年会等で情報交換を行い、学年目標に沿った指導を行った。
④ 学級経営	学級目標の具現化	目標に沿った温かい学級づくりを行う	学校目標や学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、学級経営を行う	3	3.8	3.4	正副担任で情報共有を図り、様々な活動を通して学級目標達成に向け取り組んだ。
2 教育活動 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価							
① 教育課程の編成	創意工夫を生かした適切な教育課程の実施	学習指導要領の主旨が生かされた特色ある教育課程を編成する	多様な生徒の能力・興味・関心・進路に応じた特色ある教育課程を編成する	3.5	3.9	3.7	アクティブ・ラーニングや学び直しを取り入れるなど、生徒の学習意欲を高める努力をし、その結果「わかる授業と思う」生徒が86%に達した。

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価		総括	成果と課題
				前期	年度末		
② 教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善	創意工夫がなされた学習指導を行う	生徒の自主的・積極的な学習意欲を喚起するため、導入、発展に工夫した授業を行う	3.1	3.3	3.2	<p>クラスの理解度に応じた分かりやすい授業を心がけた。また、アクティブラーニング等生徒同士で教え合うことで、学習内容の理解を深めることが出来た。</p> <p>クラス編成に応じた教材を工夫し、小テスト実施やワークシート活用等で、学力の向上定着を図った。</p> <p>実技科目では、生徒の実態や施設・設備に応じた授業を工夫した。</p> <p>今後は、苦手意識改善の工夫や、単語コンテスト等を充実させ、更なる生徒の学習意欲向上、学力向上を目指したい。</p>
			学級状況などの生徒の実態に応じた指導方法や指導形態を試みるなど、授業の創意・工夫に努める	3.3	3.4		
	教材の精選及び教具の活用	生徒の実態に応じて教材の精選や工夫、教具の活用を行う	生徒の実態に応じて、教材を精選したり、教育機器等を用いたりして、指導を工夫する	3	3.3		
			使用する教材や教具について、担当教師間の情報交換の場を設け、効果的な授業のため研究・研修を行う	2.8	2.7		
	適切な学習評価	教職員の共通理解のもとに適切な評価を行う	年度当初に担当教師間で評価基準を話し合い、共通理解のもとで評価を行う	3.2	3.3		
			生徒の多面的な能力を知識・理解に偏らず、授業に取り組む姿勢など総合的に判断した評価を行う	3.3	3.3		
		評価をその後の授業にフィードバックし、指導と評価の一体化を図る	3.2	3.2			
③ 総合的な学習の時間	ねらいが明確で創意工夫を生かした活動	学習指導要録のねらいをふまえて、地域や学校の特色を生かした活動を行う	各学年の年間計画に基づき学習活動を展開する。特に「魅力ある私立学校づくり支援事業」の実施に努める	3.3	4	3.6	<p>「魅力ある私立学校づくり支援事業」に基づいた充実した活動を行い、学習内容も有意義なものになった。学習内容発表会を年度末に実施した。</p>
			各学年の学習活動を通して、情報収集力や課題解決能力等を身に付けさせ、発表の機会を設ける	3	3.9		
④ 特別活動	ホームルーム活動の充実	学校・学年の教育目標に沿った年間計画により、活発な活動を行う	年間計画に基づいて、事前準備をよく行い、活発なホームルーム活動を実践するとともに基本的な生活習慣の確立、及び公衆道徳の育成を図る	3	3.7	3.5	<p>各種行事に積極的に取り組ませた。また進路ガイダンス等計画的に行い、各学年に応じた進路指導を行えた。</p> <p>生徒会長を中心に、生徒の自発的企画、運営で各種行事や生徒活動が、活発に行われた。</p>
	生徒会活動の充実	自発的・自主的活動の推進を行う	生徒の自発性・自主性が発揮され、活発な生徒会活動を展開する	3.2	4		
	学校行事の充実	生徒の実態に即した効果的な行事	生徒の実態に即した見直しを行い、内容を工夫することにより効果的な行事を行う	3	3.8		
⑤ 生徒指導	基本的な生活習慣の確立	生徒理解に基づき、全教職員でありさつ・マナー・礼儀等のきめ細かな生徒指導を行う	服装、容儀などについて生徒心得を中心に、教職員の共通認識のもと、生徒・保護者に説明したうえで、全職員で指導にあたる	4	4	3.8	<p>部活動での指導協力もあり、生徒の頭髪服装はきちんとしている。基本的な生活習慣の確立やマナー等、良好な状況である。</p>
			普段の学校生活において、個別面談などを通して基本的な生活習慣の確立に努める	3	4		
⑥ 進路指導	進路指導の充実	系統的・計画的な進路指導を行う	生徒が望ましい勤労観・職業観を持つことができるよう、ガイダンスや模試など各学年に応じた系統的指導に努める	3	3	3	<p>啓発活動や進路別学習により、3年生はほぼ進路を決定することが出来た。1・2年生は進路適正検査や、希望に応じた進路別ガイダンスを実施し、自己理解を深め、進路意識を高めた。</p>
			進路実現に向け、進路情報の提供、講演会の実施、個人面談等を行う	3	3		
⑦ 教育相談	教育相談の充実	生徒の持つ悩みや困難の解決を援助する	カウンセリング・マインドを持って生徒に対応するように努める	3	3	3	<p>生徒に対してのカウンセリングマインドを持った対応は概ね出来た。学期毎に「いじめアンケート」を行い、いじめ防止、解決に努めた。</p>
			不登校・いじめ対策委員会を定期的に開催し、関係生徒の情報交換を行う	3	3		
	特別教育の充実	海外からの留学生に対し、特別な学習を行う	毎週1回放課後2時間を目途に、各学年に在籍する留学生に対し、国語・英語・数学を中心とした特別授業を実施する	3	3	3	<p>大学留学生別科の協力もあり、計画的に学習活動が行えた。</p>

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価		総括	成果と課題
				前期	年度末		
⑧ 生徒会活動	生徒会活動の充実	自主的な生徒会活動を支援する	生徒会行事に生徒が主体的に参加できるような工夫と呼びかけを行う	4	4	4	生徒会が積極的に動くようになり、企画・運営も計画的に行われた。
			生徒会の各種委員会活動を活発化するため、学期1回程度活動の評価を	4	4		
⑨ 読書教育	読書活動の充実	読書を通して、豊かな人格と落ち着いた生活態度を養う	図書だよりの発行に努めるとともに、図書委員を活用して図書館の利用や本の貸し出しの拡大を図り、年間読書冊数、平均7冊以上を目指す	3	3	3	図書部や図書委員が積極的に活動し、図書館の利用を促すためにイベントや掲示を行った。
⑩ 健康・安全教育	健康や安全に対する態度の育成	健康・安全な生活を送るための指導を行う	生徒の心身の健康について、保健主事・養護教諭・分掌・担任等の連携を密にした指導を行う	4	4	3.8	全校生徒の半数近くを占める寮生がいるため、部活顧問、養護教諭、担任との連絡を密にし、感染症予防対策に努めている。今年度は、ワクチン不足により、流行が心配されたが、大流行もなく、良かった。
			安全確保について生徒や保護者への啓発を促し、組織的に対応できる危機管理体制を整えるとともに、本校危機管理マニュアルの周知を徹底する	4	4		
			全校集会、ホームルーム指導を通して、交通安全教育や安全衛生教育を徹底する	3	4		
⑪ 人権・同和教育	人権尊重に対する普遍的価値観の醸成	人権尊重に関するさまざまな課題を認識させ、解決のための実践力を身につけさせる	体系的な人権・同和教育計画に基づき、全生徒に指導し、生徒が人権課題を解決しようとする態度を育成する	4	4	4	生徒には、折に触れ「命の大切さ」や「人権・同和」について伝達に努めている。講話も実施する予定。 教職員は、輪番で研修会に参加している。また、それを全教職員に伝達講習を実施している。
			教職員の認識の深化と、指導力の向上を図るため、校外研修に参加し、校内における職員研修を行う	4	4		
⑫ 部活動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う	部活動への参加率を前年度以上に引き上げるとともに、学習との両立ができるよう連絡・調整を行う	4	4	4	強化指定クラブを中心とした活発な活動に伴い、昨年以上に加入率が向上した。学習との両立を目指し、放課後の補習等を行い、定期テストへの取組を強化した。
			部活動によって、生徒が達成感を持ち、好ましい人間関係づくりや個性の伸長を図るよう支援する	4	4		
⑬ ボランティア活動	ボランティア活動の充実	ボランティア活動を通して、奉仕の心と郷土を愛する心を育成する	年間計画に基づき、年3回以上全校生徒が参加するボランティア活動を実施する	4	4	4	全校生徒で実施している学期毎の地区清掃。生徒会・運動部による各活動には、積極的に取り組んだ。
⑭ 資格取得	各種資格取得の奨励	個に応じた指導の一環として、各種資格取得を奨励する。	漢字検定、英語検定等の合格率を上げ、何らかの資格を持つよう指導指導する	3	3	3	漢字・英語など、全校生徒に受験させ資格取得を目指す。合格率を上げるには至っていない。
3 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価							
① 校務分掌	適切な役割分担、組織的な活動と運営	各自の役割分担が明確であり、分担に応じて適切に校務を処理する	前年度の各分掌の課題を確認し、その課題解決のために業務の改善を図る	4	4	3.9	運営委員会（38回）、職員会（29回）実施し、諸課題や学校行事等について検討審議し、学校全体の校務が円滑に行えるよう努めた。また、各部、学年、教科も定期的に情報共有のための会議を設けた。
			学校全体の校務が円滑に推進できるよう、分掌や学年相互間の連携を図る	4	4		
			各校務分掌の活動について組織的・計画的に評価を行い、資料等の記録・保存にも努める	3.5	4		
② 各種委員会	目的に応じた適切な委員会の設置とその運用	目的に沿って適切に委員会を設置し、運営する	各委員会の設置目的を確認し、必要に応じて新設、統合、廃止等の見直しを検討する	3	3.5	3.4	必要な委員会は設置しており、定期的または必要に応じて会議等を行った。また、その内容を共有出来るように努めた。
			各委員会での話し合いの結果を、教育活動や学校経営等に生かす	3.5	3.7		

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価		総括	成果と課題
				前期	年度末		
③ 校内研修	研修体制の確立と実践	計画的・組織的に授業研究等を行う	生徒の実態や自校の教育課題をふまえ、全職員による校内研修を学期に1回以上行う	4	4	3.5	校内教研では、公開授業を行い教員間で研修を行った。新教育改革等についても、積極的に情報収集に努めた。また、教員向けの講話も実施した。
			授業見学等の機会を設け、教育実践の向上を図る	3.5	3		
			研修内容により、研修受講者が、その内容を校内の教職員に知らせる機会を設ける	3.5	3		
④ 現職教育	教職員の資質向上への取り組み	私学教育研修会等の研修に積極的に参加する	私学教育研修会等の研修へ積極的に・計画的に参加し、内容によっては報告会を開き、教職員の指導力等の向上を図る	4	4	4	各種研修会に可能な限り参加し、その内容伝達・報告の機会を設けた。
⑤ 学校活性化	目標設定自己評価制度の導入と充実	積極的に学校活性化に取り組むため、教師一人一人が学校運営に参加する	学校活性化に向け、各教職員が本年度の重点目標を設定し、その達成に向けた具体的方策を計画立案、実行に向け努力する。その成果について自己評価を行い、次年度に繋げる	4	4	4	自己評価シートを年度当初に作成し、中間評価を行い、目標達成に努力した。
	総合的な学習への取り組みを活用する。	学習意欲の向上、及び視野の拡大に努める	大学の附属高校としての特色を活かし、高大連携事業を全学年に実施する。「魅力ある私立学校づくり支援事業」の指定を目指す	4	4	4	「魅力ある私立学校づくり支援事業」の指定を受け、各種事業を計画通りに実施した。
4 教育環境 学校の置かれている条件や環境に関わる教育的成果の評価							
① 環境の整備	潤いのあふる生活環境の整備	日々の清掃を充実させ、美化意識を高める	全校生徒、全教職員で積極的に清掃活動に取り組む	2.5	3.5	3	先生方も極力動いてくださり、声かけしながらですが清掃活動も随分と落ち着いてできるようになった。
② 施設設備の管理	活用と安全管理	施設・設備の有効な活用が図られ安全点検等の管理を適切に行う	施設設備の安全点検や補修を学期に1回以上行い、環境整備を図る	4	4	4	衛生委員会を設け、定期的に施設・設備の安全点検、補修を行った。
③ 情報インフラの設備・充実	教育活動全般の情報化	パソコン等を使った校務処理を適切に行う	パソコンによる校務処理を積極的に推進するとともに、データの共有化を図る	4	4	3.5	指導要録や通知表のデジタル化によって、スムーズに校務が遂行した。ホームページは、少なくとも月に1度は更新をしているが、頻度を多くする必要がある。
	ホームページの更新	ホームページを見やすくし、定期的に更新する	ホームページの定期的更新を行い、学校情報の積極的発信に努める	3	3		
5 開かれた学校づくり							
① 保護者との連携	協力体制の確立	生徒に関する情報を相互に交換する。	学年育友会を年1回以上開き、生徒の状況について学校と保護者が緊密に連絡や情報交換を行う	3.5	4	3.8	総会・学年育友会では、講話等を充実させ、参加者増を目指した。必要に応じて、保護者への連絡を密に行った。
	育友会活動の充実	支援と活性化を積極的に図る。	自主的な育友会活動が活発に展開されるよう積極的に支援する	3.5	4		
② 地域や関係機関との連携	協力体制の確立	学校方針や具体的教育活動についての情報を提供する	学校方針や具体的な教育活動の中身について適切な情報を地域や関係機関に提供するため、学校新聞・学校通信を年2回以上発行する	3	4	3.8	学校新聞、ホームページ、メールメイト等で、学校の諸行事や情報を公開、連絡し、保護者や地域の方々に理解・協力を得た。また「魅力ある私立学校づくり支援事業」の実践報告を、3月の「総合学習発表会」にて、外部関係者や保護者の参加を得て実施した。
	学校間連携の充実	他校や異校種との必要に応じた効果的な連携を行う	生徒募集とは別に、情報交換のための近隣中学校訪問を学年・生徒指導等で実施する。	3.5	4		
	地域の青少年スポーツ活動への貢献	部活動を通し、地域の子供達に対し、スポーツの促進を図る	近隣地域の小中学校を対象に、本校部顧問が指導し、地域の子供達の健全育成を図る	3.5	4		
	外部講師の招へい	教育目標に沿って、外部講師招へいによる教育活動を行う	年間計画に基づき、平和教育・進路講話・人権講話等に外部講師を積極的に活用し、教育的効果を高める	4	4		